

図書館だより



2020(令和2)年9月17日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fks.ed.jp/>



展示のご案内

◎企画展「よいものたくさん福島県」

場所：企画展示コーナー

期間：9月4日～11月4日



◎時事展示「感染症と人類」

場所：時事展示コーナー

期間：9月4日～11月4日

◎ロビー展示「わたしたちの夢」

場所：ロビー展示コーナー

期間：9月4日～9月30日

◎本のひろば セレクション展示

「みんなで考えよう、防災。」

場所：本のひろばセレクション展示コーナー

期間：9月4日～11月4日

「日常を彩る 衣・食・住」

場所：本のひろばセレクション展示コーナー

期間：9月10日～11月4日

◎ミニ展示

「やさい・くだものの絵本」

「お金と向き合う」

「魚とともに」

「日本のむかしばなし 世界のむかしばなし」



リンク集



県立図書館 HP の「リンク集」には、福島県内の図書館や大学図書館の HP につながるリンクがあります。県外の図書館やその他の蔵書検索サイトにつながるリンクも掲載されていますので、ぜひご活用ください。



出張展示のご案内



県立図書館では、図書館・図書室へ「東日本大震災福島県復興ライブラリー」「朝河貫一資料」の展示セットを貸し出す出張展示を行っております。展示セットの貸出期間は1～3か月です。詳しくはHPをご覧ください。



公式 Twitter のご案内



@fukushim_p_lib

県立図書館公式 Twitter では、展示のご案内や講演会情報などを紹介しています。図書館員がお気に入りの本棚を紹介する「#図書館員のオタク棚」も更新中です。フォローお待ちしております♪

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『あぶない法哲学 常識に盾突く思考のレッスン』
住吉 雅美／著 講談社 2020.5 321.1/マ205

法哲学とは、聞き慣れない上に難しそうです。社会秩序のために必要な法律ですが、頼り過ぎると「人間の力を衰えさせる可能性が」あるよ、ということ、ビールでも飲みながら気楽に読んでほしいと書かれています。遠く存在を感じる法律ですが、そもそも正しいのか、自分は自由だと思っているけれど本当かなど、多くの事例をあげながら、どう考えるのかと刺激されます。コロナ禍にあって固まりがちな頭を鍛える機会にしてみたいはいかがでしょうか。

『美しい痕跡 手書きへの讃歌』 フランチェスカ・ピアゼットン／著 みすず書房 2020.4 727.8/ヒ7204

カリグラフィとは文字を美しく書くことで、その技術のことをいいます。

テクノロジーが発達した今日だからこそ、手書きの文章に人間性や唯一性を感じることはありませんか。手で書かれたものには物語があり、書いた本人のことが表現されます。本書には、長年カリグラファーとして活動してきたイタリア人の著者によるそんな手書きへの思いが込められています。1522年出版の筆記体の教則本で本邦初訳の『ラ・オペリーナ』とあわせて、手でかかれたものに思いを馳せ、美しさを感じるこのことのできる1冊です。

『ダム大百科 国土を造る巨大構造物を見る・知る・楽しむ!』 萩原 雅紀／監修 実業之日本社 2020.6 517.7/ハマ206

建設の是非が論じられることも多いダムですが、近年多発している気象災害の際には、その貯水能力に注目が集まることもあります。

本書では、そんなダムと河川管理についてわかりやすく解説しています。その他にも、ダムカレーやダムカードなど、ダム見学の楽しみ方も紹介されています。

ちなみに、国内にあるダムのうち総貯水容量第2位、第3位が福島県にあります。第2位は福島・新潟にまたがる奥只見ダム。第3位は田子倉ダムです。

児童・児童図書研究

『生きつづけるキキ ひとつの「魔女の宅急便」論』
斉藤 洋／著 講談社 2020.2 J913.6/加/

1985年に発行された、角野栄子の『魔女の宅急便』。35年経ちますが、今も子どもたちから人気があります。その理由は何でしょうか。『ルドルフとイッパイアッテナ』の作者・斉藤洋が、章ごとに物語を追い、どこに魅力があるのか探ります。そこから見えてきたのは、このキキの物語は、現実社会を生きる読者にとって、共感できる部分が多くある、実にリアルなファンタジーだということです。角野栄子と斉藤洋による対談も収録されています。

雑誌・新聞

まだまだ暑い日が続きそうですが、少しずつ季節は夏から秋へと変化していきます。収穫の秋を迎えると食卓で旬の美味しいものを食べる機会が増えます。そこで、私たちの体をつくる大切な「食」や「栄養」について考えてみませんか。

『栄養学雑誌』第78巻第3号、2020年6月 Z/498.5/E3
栄養に関する論文が掲載されています。

『食べもの通信』第86巻第9号、2020.9月号 Z/498.5/T1

特集:食べ続けて大丈夫? 超加工食品 / シリーズ
コロナ危機から命を守る〈4〉

『栄養と料理』第86巻第9号、2020.9月号 Z/596/E2
特集:人生100年時代をおいしく、健康に

『AFCフォーラム』第68巻4号、839号、2020.8 Z/605/K1/2-

特集:業務用取り戻す国産野菜

『農耕と園芸』第75巻3号、通巻1103号、2020.9月秋号 Z/620.5/N1

特集:エダマメの最新動向/知りたい! バイオスティミュラント

地域

『トンネル誕生』 山崎 エリナ／撮影 グッドブックス 2020.6 L516.9/Y1/1

ひとつのトンネルが誕生するまでの過程を撮影した写真集です。撮影されているのは、川俣町の国道114号、泡吹地トンネルです。令和元年9月30日に工事が完了しました。設計から木々の伐採に始まり、発破させながらの掘削、貫通、防水シートの張り付けやコンクリート打設など、建設中にしか見ることのできない各工程が写真に収められています。

トンネル建設現場の、ダイナミックでどこか静かな雰囲気伝わってきました。

『家族写真 3・11 原発事故と忘れられた津波』
笠井 千晶／著 小学館 2020.6 LS369.31/K77/1

東日本大震災以降、カメラを抱えて現地に続いた筆者が、ある被災家族に寄り添い続けた7年間の記録です。津波で両親と子ども2人を亡くし、そのうち今もなお行方不明となっている父と息子を捜し続ける男性。その胸の内の深い絶望と、新しい命とともに少しずつなされていく再生が丁寧に描かれた作品です。結末に待ち受ける小さな奇跡が胸に迫ります。第26回小学館ノンフィクション大賞受賞作です。